

知恵の樹

growing in OZUKA

広島市立大学
附属図書館報

第75号 2018年4月
(新入生歓迎号)

タイトルの由来について

「知恵の樹」とは、“思想の発展”を象徴するものとして、また、この樹を植えることは知力の督励を意味するものとして古今東西を問わず知られている。この樹を図書館報のタイトルイメージとし、大学が立地するここ大塚の山において樹齢を重ねていきたいとの思いを込めている。

なお、この「知恵の樹」のモデルは、本大学正面入口にある1対の「楷(かい)の木」である。

<特集>

始めよう！大学図書館ライフ

先生から新入生の皆さんへ _____ 2-3

「私の図書館エピソード・お薦め本」紹介

わたしの一冊 / 図書館 DIARY _____ 4

始めよう！ 大学図書館ライフ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

大学での学習・研究では、「自ら調べる・考える・発信する」ことが多く求められます。

附属図書館は、皆さんの総合的な学びを支援するための資料・情報・環境を整備しています。

「知の宝庫」とも言われる図書館を最大限に活用し、充実した学生生活を送りましょう！

今回の特集では、皆さんと同じくフレッシュな若手・新任の先生方に、図書館エピソードや活用法、お薦め本をご紹介します。



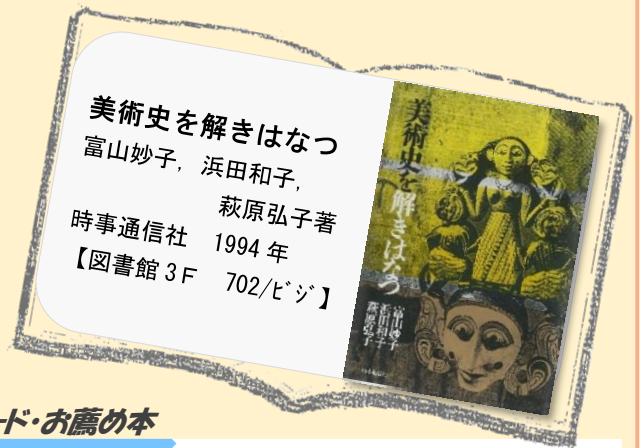
芸術学部 石松 紀子先生

自己紹介

主な研究分野は、現代美術です。特に、美術が社会や政治のなかでどのように生成され、また変化に対応しているかに関心をもって研究しています。

<著書>

『イギリスにみる美術の現在：抵抗から開かれたモダニズムへ』
石松紀子著 / 花書院 2015年【図書館2F 702.33/イシ】



私の図書館エピソード・お薦め本

広島市立大学で教鞭を執るようになってからまだ1年ですが、学内でよく訪れる場所が図書館です。授業の準備や研究をする上でも、まずは図書館で文献を調べてから取り掛かります。「困った時の図書館頼み」と言うと大げさかもしれませんが、大学時代にも、課題に追い込まれた時や勉強に集中したい時に駆け込むのが図書館でした。

芸術学部では「現代美術史」を担当していますが、研究では主流の現代美術というよりは、あまり知られていないイギリスのアジア・アフリカ系のアーティストや、東南アジアの現代美術について取り上げています。このような美術に関心を抱くようになるきっかけとなったのが本書です。それまでは、ヨーロッパやアメリカを中心とした近・現代美術の展示会を好んで見ていましたが、同書を読み、従来の美術史が主要な国々の美術に特化され、それによって芸術観や美術の枠組みが非常に限定されたものになっていることを知りました。従来の美術とは違う、多様な価値観や美術の在り方を学んでいくことの面白さに気づかされる一冊です。

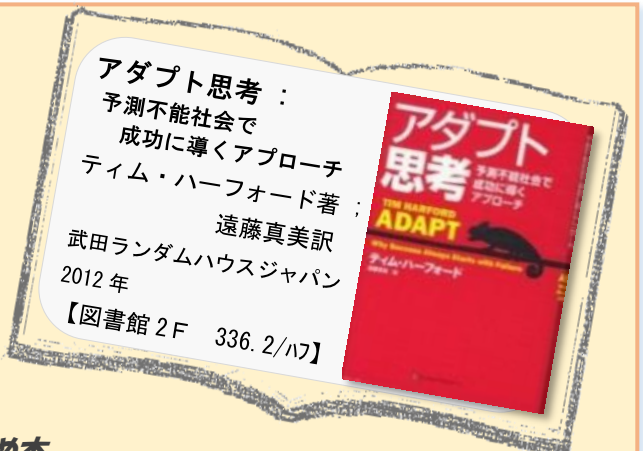
国際学部 山根 史博先生

自己紹介

主な研究分野は環境経済学、行動経済学、リスク認知学。例えば、環境保全やリスク削減に対する人々の選択や価値評価について実証研究を行っている。

<著書>

『にぎやかな田んぼ：イナゴが跳ね、鳥は舞い、魚の泳ぐ小宇宙』
夏原由博編 / 京都通信社 2015年【図書館3F 468/ナツ】



学生の皆さんへ・私のお薦め本

高校までの学生生活と大学生活には大きな違いがあります。それは、皆さんがこれまで他人任せにしてきたさまざまな問題(何時に起きて何を食べ、何をどう学ぶかなど)を自分で判断し、その判断が自分や社会に及ぼす影響に責任を持たなければならないことです。

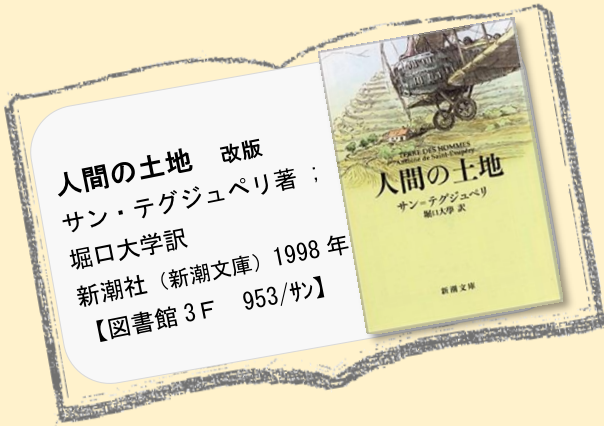
自己責任を伴う以上、私は、皆さんが学術的な探求や社会活動、人生設計をする際に教科書の内容や先生や親などの目上の人からの助言・指導を過度に信じるべきではないと思っています。世の中は複雑ですし、刻々と変わっていくものですから、いつでも何にでも通用するマニュアルは存在しないと考えるべきで、そのありもしないものを信じて取り返しのつかない失敗をするよりも、各自が適切に判断し臨機応変に対応することが求められるからです。

では、判断に迷ったときはどうすべきでしょう？本書は「判断の前に、小規模に実験(試行錯誤)せよ」と勧めます。そんなの当たり前と思うかもしれませんが、実はその当たり前のことがなかなかできないのです。本書は、戦時下での判断、技術開発、貧困問題や気候変動問題、金融問題などで実際にあった判断ミスの前例を挙げ、実験を試みることの難しさとその困難を乗り越えることの重要性を説いています。

当然、実験が失敗に終わることはよくあります。だから小規模に実験しましょう。また、私たちは失敗から多くのことを学ぶことができます。本書を参考に、皆さんの日常生活や人生の問題に対して、失敗を恐れずさまざまな実験を試みてください。



情報科学部 石川 直樹先生



自己紹介・私の図書館活用法

無線通信の研究をしています。スマートフォンはもはや私たちの生活に欠かすことのできない無線端末ですが、その通信速度を極限まで改善しようと日夜試行錯誤しています。

図書館は情報の宝庫です。私は普段、自分の専門とは異なる分野の専門書を借りて勉強しています。分野が違って人間を考えることは大抵似通っているので、意外な共通性が新しい研究のアイデアを思い付くきっかけになります。図書館を歩いているだけで楽しい発見があり、私の研究生活には欠かせない存在です。

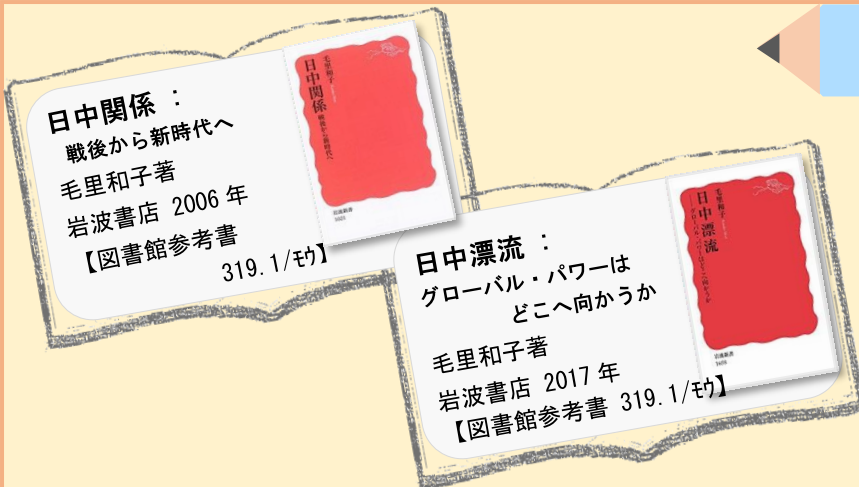
私のお薦め本

サン・テグジュペリと言えば『星の王子さま』を思い浮かべる人が多い。同作は児童書ではなく、現代社会の大人たちを鮮やかに風刺している。本作『人間の土地』はサン・テグジュペリが国際郵便のパイロットとして働いていた頃の自伝で構成されており、『星の王子さま』とも関連が深い。1926年当時は航空機が現代ほど発達しておらず、長距離の空輸は命懸けであった。スペインの険しい尖峰。突然止まるエンジン。不時着したサハラ砂漠で遊牧民の銃撃。そういった極限状態で語られる、宇宙から俯瞰しているかのような彼の人生観と職業観は、これから社会に出ていく大学生・大学院生の励みになると思う。本作では話題が頻繁に移り変わる。この乱気流のような文体がサン・テグジュペリの言葉に臨場感を持たせているものの、人によっては読みづらく感じるかもしれない。



📍→石川先生が平成29年度「丹羽保次郎記念論文賞」を受賞されました。おめでとうございます！
(この賞は、電子通信工学関連分野に属する若手研究者の優れた論文に対して授与される賞です)

平和研究所 徐 顕芬先生
ジョ ケンフン



自己紹介

平和研究所の准教授で徐顕芬と申します。現代日中関係および現代中国政治外交を研究しております。

<著書>

『日本の対中 ODA 外交：利益・パワー・価値のダイナミズム』
徐顕芬著 / 勁草書房 2011年
【図書館 2F 333.82/ジョ】

私の図書館エピソード・お薦め本

私の長い学生時代のなかで、特に早稲田大学時代の図書館が忘れられません。大学に来て、授業と食事以外は、ほとんど図書館で過ごしました。いつも「勉強」にあたる専門書を読み始めますが、そのうちに「世界のどこに行っているか」「大昔のどの時代に行っているか」も分からないほどの幅広い書籍に魅了されていきます。無限に広がる可能性に思いをはせてくれるのが図書館こそその力でしょう。隅にある席か、窓際か、書庫のど真ん中か、自分の好きな居所を選んで、ゆっくりと自分の時間を過ごしましょう。これこそ大学生の幸福なひとときだと感じましょう。

ここでは、日中関係に関する汗牛充棟の本から、非常に手に取りやすい2冊、毛里和子著『日中関係：戦後から新時代へ』とその姉妹編『日中漂流：グローバル・パワーはどこへ向かうか』をお薦めします。第二次世界大戦後の日中関係の経緯および今現在の問題に対する理解を深め、そしてこれからの展望も読み取れるでしょう。



📍→汗牛充棟 (かんぎゅうじゅうとう)
《柳宗元「陸文通先生墓表」から。引くと牛が汗を流すほどの重さ、積むと家の棟に届くほどの多さの意》蔵書が非常に多いことのとえ。また、多くの書物。【デジタル大辞泉より】

わたしの一冊

芸術学部 今村 雅弘 准教授

『木に学ぶ：法隆寺・薬師寺の美』 西岡 常一 著 小学館 1988年



ある時、古寺を修復する話がテレビで紹介され、小川三夫という人が語っていた。彼は、飛鳥時代に建立された薬師寺の金堂や法輪寺三重塔の再建に携わり、現在も宮大工の棟梁として働く人である。私たちが古美術研究旅行で訪ねる寺院の歴史を知る大工職人として大いに興味を誘った。今回紹介する本は、小川三夫の師匠である宮大工・西岡常一のエッセイ。本の題名は『木に学ぶ』である。

芸術学部には、古美術研究旅行というカリキュラムがある。奈良・京都の仏像や障壁画を訪ね、制作した作者の視線や技、時代を想い感じながら古寺伽藍を巡る授業である。そこでは、薄暗いお堂の中で仏像の写生を行い、講師の話をお聴きする時間もある。私自身がこれまで足を運んだ古美術研

究旅行は、学生時代から数えれば結構な回数を数えることになるが、知識的なことはなかなか頭に残らないものである。しかしながら、いにしえの時に刻むその地には、寺の本尊として静かに佇む仏像や伽藍が纏う歴史の空気があり、足を運ぶほどに引き込まれる魅力がある。

本の話し手・西岡常一は、法隆寺を解体修理した宮大工の棟梁である。1300年間建ち続ける木造建築、飛鳥の工人たちの手業をじかに触り、木の力を知る大工である。ひたすら目の前の木と対話し続け、自然の摂理に尊崇の念を抱き手業を極めた人の言葉は、もの造りの基本を思い起こさせ、地道に積み上げていく時間の大切さを伝えてくる。短い話であるが大事なことを教えてくれる本だと思う。



この本は図書館 3 階にあります。【526.18/ニシ】

いちだい 市大コーナー新着図書

市大コーナーでは、本学の先生や卒業生が出版した本や各学部の紀要などの大学の出版物を紹介しています。

『カーハッカーズ・ハンドブック：車載システムの仕組み・分析・セキュリティ』

Craig Smith 著；自動車ハッククラブ訳 オライリー・ジャパン 2017年 (情報科学部・井上博之准教授監修)



図書館DIARY(2017 Oct. - 2018 Mar.)

- ・10月9日(月・祝) ビブリオバトル@広島市立大学
- ・10月9日(月・祝) ~1月24日(水) 臨時延長開館
- ・10月10日(火)・17日(火) 図書館ガイダンス (国際学部1年)
- ・10月28日(土) いちだいBOOKリユース市
- ・11月1日(水) ~30日(木)
「附属図書館の利用に関するアンケート」実施 (学内)
- ・11月3日(金・祝)
全国大学ビブリオバトル 中国Eブロック地区決戦
(情報科学部4年・安森璃菜さん出場 於：広島県情報プラザ)
- ・11月9日(木)・10日(金) 中学生職場体験学習受け入れ
- ・11月11日(土)
いちだい知のトライアスロン 出張講座『晩菊』
(講演：国際学部・佐藤深雪教授
於：広島市映像文化ライブラリー)

- ・11月13日(月)
トークイベント「この秋、映画にどっぷり浸ろう」
(ゲスト：西崎智子氏 (広島フィルム・コミッション)
佐藤武氏 (広島市映像文化ライブラリー主幹)
於：いちコモ)
- ・12月4日(月) ~26日(火)
企画展示「私たちにできることは？」
(Hiroshima Active Library協働事業 於：いちコモ)
- ・1月4日(木) ~2月9日(金) 「ほんの福袋 2018」貸出
- ・1月30日(火) ~3月26日(月)
企画展示「広島市立大学COC+アートプロジェクト：
宮島双六 観光マッププロジェクト展」報告ミニ展示
於：いちコモ

注：掲載した個人の所属・肩書きはイベント当時のものです。

附属図書館の最新情報はWebサイト・ツイッターでお知らせしています。チェックをお忘れなく！

Web サイト: <https://www2.lib.hiroshima-cu.ac.jp/> Twitter アカウント: 「@HiroshimaCU_lib」

編集後記

今年も始まりの春がやってきました。新入生の皆さんも、じきにレポートなどの課題に頭を悩ます日がやってくることでしょう。「どうしよう！」そんな時はまず図書館へ。図書館は資料の探し方や調べ方をはじめ、皆さんの学習・研究をサポートします。これからの4年間、ぜひ図書館を身近な場所にして、新しい知識や教養、そして恩師や仲間との出会いをみつけてください。皆さんの「知恵の樹」が大きく育ちますように！！(←最後に館報名をアピール。笑)

2018年4月2日発行

広島市立大学附属図書館

広島市安佐南区大塚東三丁目4番1号

TEL : (082) 830-1508

FAX : (082) 830-1659

E-mail tosho@office.hiroshima-cu.ac.jp

<https://www2.lib.hiroshima-cu.ac.jp>



広島市立大学 附属図書館
Hiroshima City University Library